

やくしまに暮らして

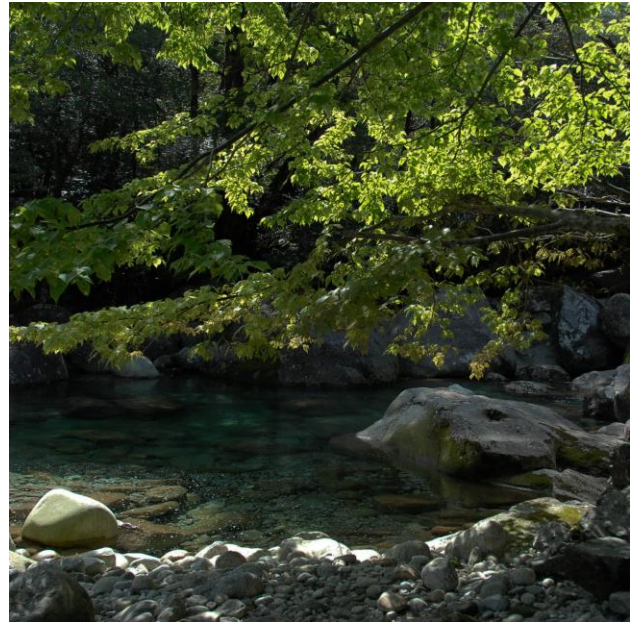
ネイチャーガイド 大野 睦

第九章 ライフライン

■水

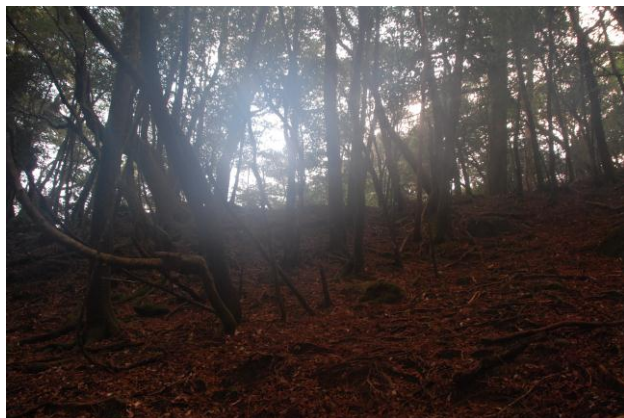


屋久島には水が溢れている。山間部では年間10000ミリもの雨が降る。その雨が屋久島の自然はもちろんのこと、私たちの暮らしを支えている。月に35日雨が降ると言われれば、屋久島では本当に毎日ずっと雨が降っていて、青空を見ることなんて年に何日もないのでは？なんて印象を持たれているらしいが、そんなことはない。平地でも大阪や東京の3倍以上の雨量が観測されているが、屋久島は熱帯雨林でもなく四季のはっきりとした日本の気候そのものである。



春には春の「木の芽流し」と呼ばれる雨が降り、新緑を美しくする。梅雨入り前の5月はさほど雨は降らず、初夏の屋久島を楽しむことが出来る。6月には梅雨の止まない雨。7月から9月の雨量は多くは台風がもたらしてくれるもの。秋には静かに雨が降り、冬の雨は雪へと変わる。一年中、雨の恵みに困ることのない屋久島では断水になることがほとんどない。私が屋久島に暮らして17年。一度だけ断水になったことがあるが、それは台風で送水ポンプが壊れたから、という理由であった。われわれ人間が生きるために欠かせない大切な水はまさに溢れんばかりにあり、その贅沢な環境を当たり前と感じてしまうが、島を出たときにその水の美味さや清らかさにあらためて感謝する。

■電気

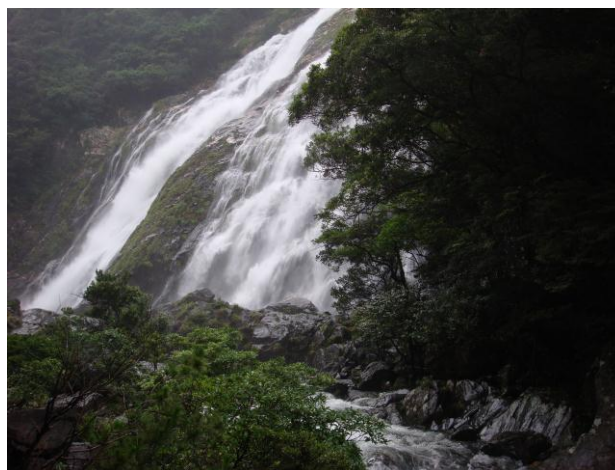


昨年の東日本大震災以降、各地で計画停電の対策、また節電への呼びかけが続いているが、屋久島には九州電力からの送電地域は極わずかであり、ほとんどが屋久島電工から送電されている。そして、その電力の源は水力発電であり、今や電気に至っても豊富な水から生み出される。今となつては原発問題、エネルギー問題が取り上げられる際に、世界自然遺産の屋久島がクリーンエネルギーで生活をしていることが少しずつ知られるようになってきたようだが、この暮らしは決して安泰ではない。何故なら毎年夏から秋にかけて台風が幾度も通り過ぎてゆくからである。その台風のたびに数時間の停電や1～2時間の停電が断続的に続くことや、長ければ2日間停電になることもある。また、雨の多いとき、雷雨のときにも停電になることがあり、その度に「無計画停電」に慌てず、憤ることもなく自然の営みの流れを見つめ、ただただじっと過ぎ去るのを待つのみである。



■ガソリン

生活に必要な物資などは船で運ばれる。離島なのだから当然のことではあるが、そのことがあらゆる物価を高くさせており、日用品や、食料品、ガソリンの価格が本土の2割増くらいになる。また台風で船が欠航すればスーパーから日配品など食料が消えてゆく光景も珍しくない。このことは以前第3章でも触れているが、こうして物価が高くなっていることも離島の暮らしには致し方ないのかもしれないが、背負うリスクとしては些かフェアじゃないと言いたくもなる。



もちろん、私自身はここを選んで暮らしており、恵みもリスクも受けとめているのだが、様々な面で矛盾のない、もっと暮らしやすい社会へと変わることを切に願う部分もあるが、これだけ自然の恩恵を目の当たりに生きることが出来ることも贅沢な暮らしであると感じている。

大野 睦 BLOG やくしまに暮らして
<http://mutsumi-ohno.seesaa.net/>